長洲町立長洲小学校　校長便り　No.44

みんなの居場所

本日の裏面は
陸上記録会特集
です!!

令和4年10月28日(金)

読書の秋～作者の心～

私、名作と呼ばれるものも幾つか読みました。宮沢賢治の作品、「注文の多い料理店」をご存知でしょうか。私は猫を見ると思い出してしまって、身震いしていたことを思い出します。「銀河鉄道の夜」は学生時代に初めて読破しました。暗い感じがして、「宮沢賢治って暗い?」等と考えたものです。

読書は物語に集中するのも面白いのですが、もう二つの楽しみ方があります。それは、作者が作品を通じて読者に何を訴えているのかを探ることです。作者の生い立ちや考え方を探ると、面白い読書ができます。漫画も然りです。

最近読んだのは「珈琲店タレーランの事件簿」で、8まであるのですが一気読みしました。山本憲明さんの「仕事が速い人の8つの習慣」は「働き方改革」を進めていく上で、自分自身にとって必要な知識だと思って読んだ本です。

仕事と意識を切り離すために読書は有効です。オンとオフをハッキリさせるためにも、読書に限らず他の世界に意識を浸らせることは大切です。

読書について私見を述べました。読んでいるとその作者がすぐそこで話をしてくれているような気がしてきます。読書に浸り、秋の夜長を楽しみましょう。

経験則①「人間関係」

私達教師には、普段のパフォーマンスの中で感覚的に身に付けていくスキルや法則があります。いわゆる経験則です。経験則とは実際に経験された事柄から見いだされる法則のことです。私の経験則ですから全て当たっているとは言いませんが、教職生活34年目、これについては自信をもって話せる、あるいは子供達、保護者の皆様に伝えたいことを、綴ってみたいと思います。

思春期の入り口、子供達は独特の人間関係を作ります。女子がグループを作ったり、排他的な人間関係を作ったりすることもその現れです。そういった関係がプラスに働いているときは良いのですが、マイナスに働くときは我々の指導が必要です。しかし、思春期特有の水面下で進んでいく「いじめ」等は質が悪いです。まずそういったいじめは、先生に気づかれないように巧妙に仕組まれていきます。ただいじめるだけでなく、口止めをしたり、報復をほのめかしたりすることによって、事態を悪化させていくのです。しかも、普段の生活の中で、いじめかそうでないかの判断が難しい行動をとることも多いです。例えば「体を故意に当てる」とか「足をかける」とか「ひそひそ話」等がそうです。行動を捉えて教師が問い詰めても「わざとではありません」という返事が返ってくることが多いです。こういった子供達の心理としては何かしらの「不安」を抱えていることが多いです。「孤立」、「家族」、「友達」、「進学」等がそうです。やり場のない不安を、自分を守るために反社会的な行動に出ることによって、心身のバランスをとっているのです。この状態が長く続くと本人にとっても不利な状態が生まれてきます。いじめの構造が逆転したり、孤立することになったりします。また、子供達は感覚的に「いじめ」は悪いことと知っているため、保護者に対しては自分を守るために都合の良い言い訳をすることがあります。保護者としては子供の言い分を信じてあげたいと思うのは理解できますが、この時の子供の心理状態を冷静に分析、把握しなければ、負の連鎖が続いていくことになります。生身の人間同士の関係をうまくつくれないということは、将来に影響が出ます。そうならない様、ご家庭では子供達のお話をしっかり聴いてほしいと思います。

シリーズ「自分を語る」#44

強歩会を実施することで効果を解っていたならば、もっと強力にプッシュしたことでしょう。そんな中、参加希望者募ってみると、「全員参加」という状況でした。子供達も保護者の方々も、初めて行うことに胸が高鳴ったのではないかと思います。私はそうなんですが、新しいことに挑戦し、体験し終わった後の爽快感や充実感、達成感を味わうことが快感なんですよ。

嘉島町と益城町、西原村は、隣接はしているものの、移動が大変でした。まず、交通センターにバスで移動して、その後宮港リムジンバスに乗り換え熊本空港へ。そこから徒歩開始です。保護者の予想は完全に覆されましたね。西原村の白糸の滝で昼食だったのですが、予想以上に子供達が元気で、しかも滝壺部分から水しぶきが飛び、とても涼しく、滝壺から少し離れた場所では水遊び、スイカ割り等で楽しんでいました。その後3kmほどの道のりを歩くのですが、何の問題もなく最終目的地「河原小学校」に到着しました。到着後、子供達は鬼ごっこを始める一幕も。それを見ていた保護者の方々はこう仰いました。「もう少し長くてもよかったかも…。」最初の長い遠足が成功し、子供達も保護者も更に高い目標に向かうことになりました。

4月、「5年生になったらまた歩きたいね。」と呟きながら、子供達は5年生へと進級し、担任発表の日を迎えます。始業式の日、子供達はソワソワしていました。5年生になったらクラス替えもあって、担任の先生が代わる可能性が高いから尚更です。4年生の時の先生は異動で他の学校へ行っています。校長先生が新担任を発表していきます。

「1年1組、○○先生」(さわざわする程度)、「2年1組、○○先生」(やったぁ～と歓声)、「5年1組、澤田先生」(おぉ～ と意外だ～という感嘆)

教室での学級開き、子供達に問いかけました。

「どんな気もちだ?」「…」　「先生はとても嬉しいけど…。」　「…(ニヤニヤ)」　「何?」　「センセー、今年も歩くんですか?」　「歩きたいの?」　「はい!」　「去年の“長めの遠足”は物足りなかったような気がするんだけど、今年するなら長くなるよ。いいの?」　「いいで～す。」

こんな学級開きでした。学級開きから7ヵ月後、鍛錬遠足を実施することになりました。5・6年生合同の22kmの鍛錬遠足です。それまで大人の基準や都合で一斉に実施していた遠足を、学年相応体力や可能性にチャレンジするという形の遠足に変えていったのです。目的はズバリ「達成感や成就感を味わわせ、新しい目標を定めさせる。」です。いよいよ遠足実施を迎え、私も言い出した手前、緊張感を持って全体指導にあたりました。途中、足の痛みを訴える子供もいましたが、私たちの心配をよそに全員完歩し、到着後恒例の「鬼ごっこ」を始める子もいました。このような活動を通じ嘉島西小学校での2年目は、高学年の担任として、子供達にどのような活動を提供すれば、充実した時間を過ごすことができるのかを考えた時間でした。　(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)